

## 1. 目的

平成20年度の7月上旬の調査において、シカによる採食を受けたと考えられるシレットコスミレが確認された。本調査では、昨年度(平成21年度)に引き続き、シレットコスミレの採食状況の把握をするとともに、採食を受けたシレットコスミレがどのように変化するのか把握することを目的としている。

## 2. 調査地

知床連山:硫黄山から東岳区間(詳細は別紙参照)

## 3. 調査日(調査者)

7月2日(北海道環境科学研究センター:宇野研究主幹 知床博物館:内田学芸員  
環境省釧路自然環境事務所:三宅R 環境省ウトロ自然保護官事務所:野川R、中村R、伊藤AR)

8月3日(環境省ウトロ自然保護官事務所:中村R、伊藤AR)

9月2日(環境省ウトロ自然保護官事務所:中村R、伊藤AR)

## 4. 調査方法

### (1)シレットコスミレ採食状況確認調査

硫黄山から東岳の区間について、歩道沿いを確認し、採食が確認された場合は、その株数を記録すると共に、GPS座標の記録を行った。

### (2)東岳付近の調査区域内採食状況調査

東岳付近の風衝砂礫地に、平成21年度に設置したモニタリング区画(20m×40m程度)について、その中をゆっくりとくまなく歩いて、採食が確認されたすべてのシレットコスミレ株数の記録を行った。記録するのは明らかにシカ等による採食を受けたものとし、不明瞭な株については記録していない。

調査区域の四隅のGPS座標は、下記のとおり。

N:44°07'38.8"、E:145°10'42.1"

N:44°07'37.6"、E:145°10'43.0"

N:44°07'38.2"、E:145°10'42.1"

N:44°07'39.3"、E:145°10'42.6"

### (3)第二前衛峰付近の調査区域内採食状況調査

第二前衛峰付近の風衝砂礫地に、平成21年度に設置したモニタリング区域(50m×50m程度)について、その中をゆっくりとくまなく歩いて、採食が確認されたすべてのシレットコスミレ株数の記録を行った。記録するのは明らかにシカ等による採食を受けたものとし、不明瞭な株については記録していない。

2点を結ぶラインから北西側の植生の際までを調査区とした。調査区域の2点のGPS座標は、下記のとおり。

N:44°07'45.0"、E:145°09'59.5"

N:44°07'43.7"、E:145°09'57.6"

### (4)採食株の推移状況調査

東岳付近の風衝砂礫地に設置したモニタリング区画内で採食が確認されたシレットコスミレについて、株の付近にナンバーを付けたピンを打ち、個体識別を行い、その状況の変化について確認を行った。

## 5. 調査結果・考察

### (1) シレットコスミレ採食状況確認調査

1回目の調査(7月2日)では、調査区域外において知円別分岐から東岳区間に6株の食痕が確認された(表-1)。知円別分岐から東岳区間で確認された6株は、すべて知円別分岐と調査(2)の調査区域との間で確認された。採食された株の中には、付近にシカの足跡が確認されているものや、茎の断面がむしり取られたようになって中心の繊維が残されているものがあり、シカによる採食の可能性が推察された。

表-1. 食害があるシレットコスミレが確認されたGPSポイント(7月2日調査)

場所	採食株数	北緯	東経
知円別 - 東岳調査区域 間	3	44 ° 07'32.5"	145 ° 10'20.3"
知円別 - 東岳調査区域 間	1	44 ° 07'37.8"	145 ° 10'34.8"
知円別 - 東岳調査区域 間	2	44 ° 07'38.5"	145 ° 10'39.0"

### (2) 東岳付近の調査区域内採食状況調査

1回目の調査(7月2日)では、調査区域内において19株の食痕が確認され、2回目の調査(8月3日)では2株、3回目の調査(9月2日)では0株と食痕が確認された株数は減少している(表-2)。

ただし、2回目の調査で採食が確認された株のうち、1株は新たに採食を確認された株であったが、もう1株は1回目の調査でも採食が確認された株であった。

1回目の調査において、採食株から15cmほどしか離れていない場所にウサギの糞が確認され、茎の断面が鋭利に切断されていたことから、ウサギによる採食の可能性が推察された。

しかし、動物の痕跡が近くにない採食株の茎の断面については、鋭利に切断されているようにも見えたが、それがシカによるものかウサギによるものか判断することはできなかった。

表-2. 東岳付近の調査区域内の採食株数

調査日	採食株数
7月2日	19
8月3日	2 (内1株は7月2日に採食が確認された株)
9月2日	0

### (3) 第二前衛峰付近の調査区域内採食状況調査

1回目の調査(7月2日)では、調査区域内において11株の食痕が確認されたが、2回目(8月3日)及び3回目(9月2日)の調査では食痕は確認されなかった(表-3)。

表-3. 第二前衛峰付近の調査区域内の採食株数

調査日	採食株数
7月2日	11
8月3日	0
9月2日	0

### (4) 採食株の推移状況調査














食痕が確認された20株の内、ピンがなくなり元の位置が特定できなくなった株が1株あった。それ以外の19株の内、完全に消失した個体は1株のみであり、残りの18株は食痕の確認から2ヶ月後でも確認することができた(図-1)。











食痕を確認してから、葉の数が減少しているなど株が小さくなった個体は4株しかなく、葉が再生するなどした株が14株であり、多くの株が再生していた。
















そのため、一度採食を受けた株が消滅してしまう可能性は少なく、二次開葉が確認できたことから、採食されることがすぐにシレットコスミレ個体群に与える影響は小さい可能性が示唆された。













しかし採食は、花期に受けることが多く、一度に多数の採食を受けた場合は、繁殖に影響する可能性が推察される。

図 - 1. 採食株の推移状況写真

	7月2日	8月3日	9月3日
No.1	食痕確認 	消失 	変化なし  写真データ消失
No.2	食痕確認 	食痕確認 	変化なし  写真データ消失
No.3	食痕確認 	再生 	変化なし 
No.4	食痕確認 	再生 	変化なし 
No.5	食痕確認 	縮小 	再生(少し) 

No.6	食痕確認	縮小	縮小
			
No.7	食痕確認	縮小	変化なし
			
No.8	食痕確認	再生	変化なし
			
No.9	食痕確認	不明	不明
		ピン消失	ピン消失
No.10	食痕確認	再生	変化なし
			

No.11	食痕確認	変化なし	再生(少し)
			
No.12	食痕確認	再生(少し)	変化なし
			
No.13	食痕確認	再生	変化なし
			
No.14	食痕確認	再生	変化なし
			
No.15	食痕確認	再生	変化なし
			

No.16	食痕確認	再生	変化なし
			
No.17	食痕確認	再生	変化なし
			
No.18	食痕確認	再生	変化なし
			
No.19	食痕確認	再生	変化なし
			
No.20		食痕確認	縮小
		